

指導の実際

1 授業の実際

①資料について

須波出身の末国さんが生まれ育った郷土にどう貢献していくのかという郷土愛が主題であった。児童は、自分達と同じ学校を卒業した先輩が夢を追いかけ、これからどのように生きていきたいかという思いを自分達一人一人のこれからの将来と重ねながら興味深く資料を読んでいた。

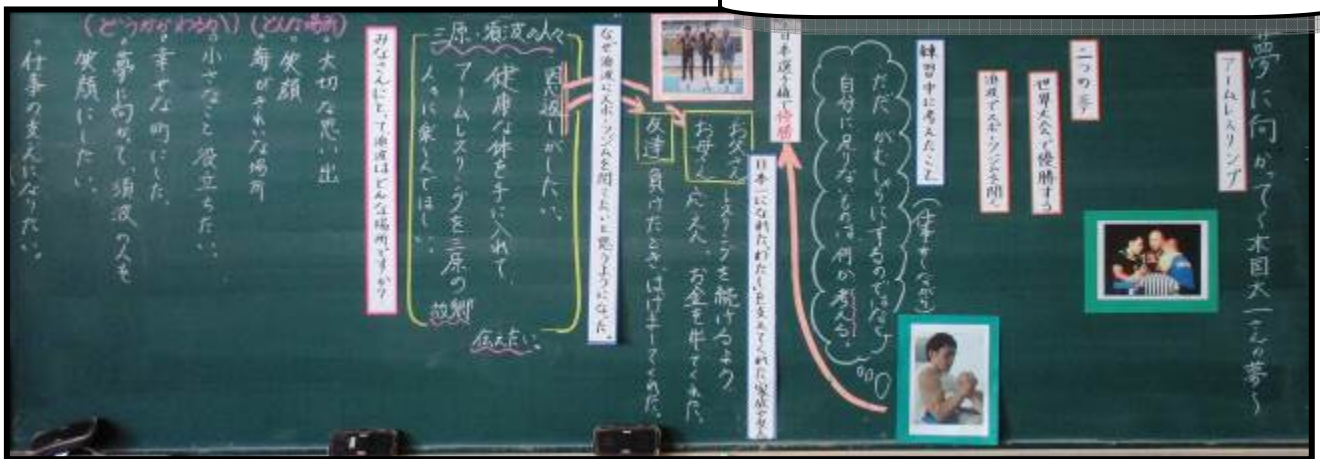
②指導の流れについて

展開の前段では、末国さんが自分自身の夢を追いかける姿について考えさせた。その際、末国さんが夢をあきらめずに追いかけることができたのは、故郷の友人や家族の支えがあったことを押さえた。これによって、後段の郷土に貢献したいという思いにつなげることができた。



【板書】

授業の終末で、児童にご自身の思いを語る末国さん



2 成果

児童は、末国さんの夢に向かって努力をしていく姿勢や生き方を目の当たりにし、振り返りにおいて、「自分が大人になったら、地域の人々と関わりながら生きたい。」や「仕事でぜひ成功して、須波の人たちが働くことができる会社を立ち上げたい。」など自分たち自身と末国さんの生き方を関連させながらそれぞれの思いを書くことができていた。

また、講演や実際にアームレスリングで児童と対決する体験活動を設けることで、末国さん自身の魅力をどの児童も体感することができた。

3 課題

本時の終末では、5、6年生児童が合同で末国さんの話を伺ったため、質問をする際、5年生の児童が戸惑ったり、遠慮をしたりしてしまう場面が見られた。児童の素直な思いや質問を引き出せる場の設定が必要だった。また、説話の後に、もう一度末国さんの説話について振り返り、授業で迫った価値と末国さんの話とのかかわりについて押さえる必要があった。

4 今後に向けて

地域の人材を発掘するために、日頃から学校と地域と家庭が連携しながら教育活動を進めることが必要である。そして、常に児童を見つめ、児童の実態や課題を発端とした授業づくりを進めていきたい。

地域の魅力的な人材を発掘し、そこから自作資料を作り、豊かな直接体験を仕組みながら授業を行う一連の流れを須波小学校の道徳授業のモデルとし、一層充実した児童の豊かな心を育む道徳の時間を創造していきたい。